

# 委員会委員養成シラバス

## 第1版（確定版）

2020年3月

本シラバスは、2018年度に臨床研究中核病院である大阪大学、国立がん研究センター、九州大学、京都大学、慶應義塾大学、東京大学（とりまとめ拠点）が、日本医療研究開発機構より「革新的医療技術創出拠点プロジェクト 医療技術実用化総合促進事業 倫理審査委員会・治験審査委員会委員養成研修」の補助を受けて作成された第1版（案）をもとに、2019年度に臨床研究中核病院である大阪大学、国立がん研究センター、九州大学、慶應義塾大学、東京大学、北海道大学、東北大学（とりまとめ拠点）が、厚生労働省より「臨床研究総合促進事業 臨床研究・治験従事者等に対する研修プログラム 治験・倫理審査委員会委員研修」の補助を受けて第1版（確定版）として作成された。

## 委員会委員養成シラバス（第1版）の解説

本シラバスの解説については、確定版の委員会委員養成カリキュラム（第1版）の解説に示した内容に補足する。

1、「講義」、「演習」の具体的な達成目標を明記し、特に注力すべき点についても合わせて記した。いずれも時間は1コマ60分程度を想定している。

2、参照可能なICT（e-learning等）プログラムについて明記し、実施目安のコマ数を記載した。ICTプログラムについては、理解度確認テスト等の併用がより学習効果を高めるものとする。

3、書籍・WEBサイトなど参考資料について明記した。

4、本シラバスにおける用語の定義は以下とする。

「医学系指針」：人を対象とする医学系研究に関する倫理指針

「臨床研究」：人を対象として実施される医学系研究（本シラバスでは臨床研究法において定義される「臨床研究」に限らない点に注意すること。）

## 本シラバスの見方

記載例)

**授業科目の目標**：受講者が本科目で修得すべき目標を記載している。

No. 3	研究倫理・被験者保護に関する過去事例		
授業科目の目標	被験者保護	<b>キーワード</b> ：本科目に関連する重要なキーワードを記載している。 講義や演習を行う際の参考とすること。	
キーワード・ 方法・時間	被験者保護、国内外の不適正事例、FFP、QRP、リサーチ	講義	0.5 コマ
	インテグリティ	ICT	0.5 コマ
概要			
1. 授業科目のねらい 研究倫理・被験者保護	<b>方法・時間</b> ：受講者が本科目を習得するために必要と思われる方法と時間を示している。必ずしも1回の研修で実施する必要はない。 で、現在の研究倫理審査において留意すべき点を説明する。		
<b>授業科目のねらい</b> ：研修実施者が本科目で扱う指導内容と方法の概要を記載している。			
2. ポイント（構成）	<b>【講義】</b> <b>ポイント</b> ：研修実施者が講義や演習を行う際に気をつけるべきポイントを記載している。		
	1) 海外事例だけでなく受講者にとって身近に感じる日本の事例から、医学研究の不適切事例とその問題点および現代への教訓について説明する。あわせて、不適切事例の発生と規制・制度の成立の関係を説明するとよい。		
	～略～		
	<b>【ICT】</b> <b>ICT</b> ：受講者が自己学習できる Web 講座や資料を記載している。 事前学習や事後学習の教材として示すことも有効と思われる。		
	1) ICR 臨床研究入門 (ICRweb) ( <a href="https://www.icrweb.jp/icr_index.php">https://www.icrweb.jp/icr_index.php</a> )		
	<b>講義（演習）目標</b> ：本科目の講義（演習）を受講することにより受講者に達成してほしい目標を記載している。		
講義目標：	1) 研究倫理上で問題になった過去の事例について知り、現在の審査に活かす視点を獲得。		
参考文献			
	1) 井上悠輔、一家綱邦『医学研究・臨床試験の倫理 わが国の事例に学ぶ』 日本評論社 2018年		
<b>参考文献</b> ：研修実施者が本科目の研修を企画するにあたって参考となる書籍等を記載している。			

## 目 次

委員会委員養成シラバスの解説	i
本シラバスの見方	ii
No.1 研究倫理の基本と歴史	1
No.2 倫理的妥当性と被験者保護	3
No.3 研究倫理で知っておくべき過去の事例	5
No.4 利益相反管理	7
No.5 研究倫理・臨床研究関連規制・保険外併用療養費制度	9
No.6 臨床研究計画	11
No.7 研究デザインと統計解析	13
No.8 臨床研究の実施体制①	15
No.9 臨床研究の実施体制②	17
No.10 研究審査体制、審査委員会、委員の役割	19
No.11 その他の重要事項	21
No.12 模擬審査委員会	23

No. 1	研究倫理の基本と歴史		
授業科目の目標	研究倫理の基本と歴史について理解し、その概要について説明できる		
キーワード・ 方法・時間	ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言、ベルモント・レポート、研究倫理の3原則他	講義	0.5 コマ
		ICT	0.5 コマ
概要			
<p>1. 授業科目のねらい</p> <p>研究倫理の基本が被験者保護にあること、その基礎を築いたニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言、ベルモント・レポートとその成立経緯について概説する。それに対比して、日本の倫理指針を中心とした規制の成立経緯について概説する。</p> <p>2. ポイント（構成）</p> <p><b>【講義】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ベルモント・レポートが設けた研究倫理の基本的枠組：「治療」と「研究」を区別することの重要性、「治療」「研究」という分類と並んで、治療目的であっても実験的手法を用いる「革新的医療（又は実験的医療）」という分類の意味を説明する。その枠組みの中で「人格の尊重」「善行」「正義」の3原則が存在し、そこから「インフォームド・コンセント」「リスクと利益の評価」「被験者の公正な選択」が導き出されたことを説明する。</li> <li>2) 上記に示したベルモント・レポートの基本枠組み・原則を、より具体的に又は現代的に補足・更新する存在としてのヘルシンキ宣言などの内容を説明する。</li> <li>3) ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言、ベルモント・レポートといった研究倫理の基礎になった第二次世界大戦中にドイツにて行われた人体実験やアメリカで行われたタスキギー事件などについて説明する。</li> <li>4) 日本の倫理指針や臨床研究法、省令 GCP などの規制が必要になった経緯を説明する。</li> </ol> <p><b>【ICT】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ICR 臨床研究入門（ICRweb）  <a href="https://www.icrweb.jp/icr_index.php">https://www.icrweb.jp/icr_index.php</a></li> <li>2) CREDITS（東京大学医学部附属病院・大学病院臨床試験アライアンス）：1-2章  <a href="https://www.uhcta.com/uth/member/">https://www.uhcta.com/uth/member/</a></li> </ol>			

講義目標：

研究倫理の基本原則を学ぶことで、研究倫理審査がなぜ必要なのかを再確認する。系統立てて研究倫理を理解する必要性、その理解を倫理審査に活かすことの重要性を意識する。

#### 参考文献

- 1) 大橋靖雄、荒川義弘 『臨床試験の進め方』 南江堂 2006 年
- 2) 井村裕夫、竹内正弘、花岡英紀、藤原康弘、山本晴子「Part I 倫理, 規制, 法的問題」  
『NIH 臨床研究の基本と実際 原書 3 版』 丸善出版 2016 年
- 3) 日本医療研究開発機構「もっと知りたい医療研究における研究倫理 倫理審査委員会：  
教育研修教材」 (<https://www.researchethics.amed.go.jp/kenkyu/kyozai.html>)
- 4) 井上悠輔「医学研究・臨床試験の倫理と日本」井上悠輔、一家綱邦『医学研究・臨床試験  
の倫理 わが国の事例に学ぶ』第一部 日本評論社 2018 年
- 5) 田代志門『研究倫理とは何か 臨床医学研究と生命倫理』 勁草書房 2011 年

No. 2	倫理的妥当性と被験者保護		
授業科目の目標	被験者保護の概念に精通し、実施する臨床研究に適用する方法を理解できる		
キーワード・ 方法・時間	被験者保護の概念と その適用、インフォームドコンセント(IC)/インフォームドアセント、オプトアウトに関する対応、リスク・ベネフィット、代諾者、公正な立会人	講義	1 コマ
		演習	1 コマ
		ICT	0.5 コマ
概要			
<p>1. 授業科目のねらい</p> <p>研究対象者の人格の尊重にはインフォームド・コンセント等が重要であり、小児を含め、いかなる場合も研究対象者の権利が保証され、自由意思が尊重されるべきであることにつき概説する。また、研究の意義（有用性）を評価した上で、研究に伴うリスクを最小化するために、リスク・ベネフィット評価の考え方の概要について説明する。</p> <p>2. ポイント（構成）</p> <p><b>【講義/演習】</b></p> <p>1) 生命倫理 4 原則（自律尊重、無危害、善行、公正）ないしベルモント・レポートの研究倫理 3 原則（人格の尊重、有益性、公正性）に沿って、それぞれの原則の意味と、それらを具体的に医学研究実施における配慮に落とし込む時のツール（インフォームド・コンセント、リスク・ベネフィット評価、公正な被験者選択）の関係を説明する。</p> <p>2) 重要な概念である「治療と研究の違い」「革新的医療（未確立医療）の取扱い」「治療としての誤解」「リスクの最小化」などについて適宜説明する。</p> <p><b>【ICT】</b></p> <p>1) ICR 臨床研究入門（ICRweb）：「被験者保護と研究倫理講座」  <a href="https://www.icrweb.jp/course/list.php#a29">https://www.icrweb.jp/course/list.php#a29</a></p> <p>講義/演習目標：</p> <p>1) 被験者保護にとっての重要な柱になるインフォームド・コンセントとリスク・ベネフィット評価について理解する。</p> <p>2) インフォームド・コンセントを中心とした研究対象者の研究協力意思確認の方法（オプトアウト等の）の基本について理解する。</p>			

- 3) 研究の意義（有用性）と不可避のリスクの取扱い方について理解する。
- 4) 社会的弱者を用いやすい構造が医学研究にはあること、そのために弱者保護として配慮することの重要性を理解する。

#### 参考文献

- 1) 田代志門『研究倫理とは何か 臨床医学研究と生命倫理』勁草書房 2011年
- 2) 神里彩子、武藤香織『医学・生命科学の研究倫理ハンドブック』東京大学出版会 2015年
- 3) 世界医師会「ヘルシンキ宣言」
- 4) アメリカ生物医学および行動学研究の対象者保護のための国家委員会「研究対象者保護のための倫理原則および指針（ベルモント・レポート）」
- 5) 国際医科学団体協議会（CIOMS）「人を対象とする生物医学研究の国際倫理指針」

No. 3	研究倫理で知っておくべき過去の事例		
授業科目の目標	被験者保護の観点における過去の不適正事例を学び、その問題を的確に理解できる		
キーワード・ 方法・時間	被験者保護、国内外の不適正事例、FFP、QRP、リサーチインテグリティ	講義	0.5 コマ
		ICT	0.5 コマ
概要			
<p>1. 授業科目のねらい</p> <p>研究倫理・被験者保護、研究不正・利益相反管理の観点から問題になった事例について解説することで、現在の研究倫理審査において留意すべき点を説明する。</p> <p>2. ポイント（構成）</p> <p><b>【講義】</b></p> <p>1) 海外事例だけでなく受講者にとって身近に感じる日本の事例から、医学研究の不適切事例とその問題点および現代への教訓について説明する。あわせて、不適切事例の発生と規制・制度の成立の関係を説明するとなお良い。</p> <p>2) 様々な種類の不適切事案がある中で、社会的弱者を搾取的に扱った事例、研究本位的な人体実験事例、一見適正な治療や臨床研究を装って行われた臨床研究事例、裁判例、薬害事件例、研究不正事例などを整理して、受講者の属性などにあわせて学ぶべき事例をピックアップする。</p> <p><b>【ICT】</b></p> <p>1) ICR 臨床研究入門 (ICRweb) : 「倫理審査に必要な基本的理解」、「臨床試験における倫理的課題 (2016 年版)」、「研究不正、企業不正の背景を考える」 (<a href="https://www.icrweb.jp/icr_index.php">https://www.icrweb.jp/icr_index.php</a>)</p> <p>講義目標：</p> <p>1) 研究倫理上で問題になった過去の事例について知り、現在の審査に活かす視点を得る。</p>			

参考文献

- 1) 井上悠輔、一家綱邦『医学研究・臨床試験の倫理 わが国の事例に学ぶ』 日本評論社  
2018年

No. 4	利益相反管理		
授業科目の目標	臨床研究における利益相反管理の概要について説明できる		
キーワード・ 方法・時間	利益相反、利益相反管理	講義	0.5 コマ
		演習	0.5 コマ
		ICT	1 コマ
概要			
<p>1. 授業科目のねらい</p> <p>臨床研究に関わる利益相反の概念について、以下の事項に留意して概説する。</p> <p>まず、広義の利益相反は、狭義の利益相反（産学連携等の活動に関わることによって、アカデミアの研究者が本来大学等で教育・研究を行うべき立場と、産学連携等の活動から利益を得る立場とが相反する状態になること）の他、責務相反（兼業等によって、大学等の研究者が本来大学で果たすべき責務と、兼業先の企業等に負う責務とが相反する状態になること）の概念も含まれることを示す。</p> <p>そのうえで、狭義の利益相反には、研究を実施するうえでの研究者個人の利益相反（研究対象となる医薬品等を製造販売する企業からの個人的利益等）の他、研究実施体制に関わる利益相反（研究対象となる医薬品等を製造販売する企業からの研究資金、試験薬等や役務の提供等）の概念もあることを示す。</p> <p>なお、狭義の利益相反には、大学組織に関わる利益相反（大学組織自体あるいは当該大学の役員等が、外部の組織・企業等との間に有する利害関係によるもの）が生じることについても示す。さらに、倫理審査委員会や利益相反マネジメント委員会等の委員の役割・責務にも利益相反の概念があることを示す。</p> <p>これらをふまえ、利益相反についての適切な管理方法や開示のあり方、懸念事項についても概説する。演習では、利益相反管理の事例をふまえて、適切な管理のあり方について議論できる実践力を培うケーススタディを実施する。</p> <p>2. ポイント（構成）</p> <p><b>【講義/演習】</b></p> <p>1) 医学系研究における利益相反の概念（広義・狭義の利益相反、個人としての利益相反、組織としての利益相反）について説明し、あわせて利益相反が問題とされる場面について説明する。</p>			

- 2) 研究実施における利益相反管理方法と利益相反状態の開示のあり方について日本の倫理指針・臨床研究法それぞれの場合において説明する。

#### 【ICT】

- 1) ICR 臨床研究入門 (ICRweb) : 「被験者保護と研究倫理講座」、「臨床研究法」および「臨床研究法に基づく研究審査」における利益相反管理関連講義  
([https://www.icrweb.jp/icr\\_index.php](https://www.icrweb.jp/icr_index.php))

講義/演習目標 :

- 1) 利益相反管理の必要性について理解する。
- 2) 利益相反管理にはどのような事項が含まれるのかを理解する。
- 3) 利益相反状態の開示のあり方について理解する。

#### 参考文献

- 1) 日本学術会議 臨床医学委員会 臨床研究分科会『提言 臨床研究にかかる利益相反 (COI) マネージメントの意義と透明性確保について』 (平成 25 年 12 月 20 日)  
(<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-t183-1.pdf>)
- 2) 新谷由紀子『利益相反とは何か — どうすれば科学研究に対する信頼を取り戻せるのか』筑波大学出版会 2015 年
- 3) 日本医学会 利益相反委員会『日本医学会 COI 管理ガイドライン』 (平成 29 年 3 月改定) ([http://jams.med.or.jp/guideline/coi\\_guidelines.pdf](http://jams.med.or.jp/guideline/coi_guidelines.pdf))
- 4) 日本医療研究開発機構 (AMED) 研究公正高度化モデル開発支援事業『利益相反管理に関する理解と知識の充実を目指した教育プログラムの開発と普及』 (研究代表者: 国立大学法人東京医科歯科大学 教授 飯田香緒里) 「— 臨床研究編 — 医学系研究における COI 管理のあり方・進め方」 (ver.2.0) 平成 29 年 1 月～平成 31 年 3 月  
(<https://www.researchethics.amed.go.jp/content/000000471.pdf>)

No. 5	研究倫理・臨床研究関連規制・保険外併用療養費制度		
授業科目の目標	規制要件や保険制度等、研究倫理に関わる事項の知識および最新の動向を理解し、審査する臨床研究に適用できる		
キーワード・ 方法・時間	ICH-GCP、J-GCP、臨床研究法、再生医療等安全性確保法、倫理指針、国際的な規制の概要、個人情報保護法、保険外併用療養費制度（先進医療・患者申出療養）、拡大治験	講義	0.5 コマ
		演習	1 コマ
		ICT	0.5 コマ
概要			
<p>1. 授業科目のねらい</p> <p>GCP、臨床研究法、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針等の各種規制について概説する。また、我が国の保険診療の枠組み、治験や臨床研究における保険外併用療養費制度（先進医療、患者申出療養）の仕組みについても概説する。</p> <p>演習では、課題として取り上げる研究に適用される法令・指針の要点をふまえ、必要に応じて保険外併用療養費制度に係る事項にも留意しつつ、倫理審査に係る研究計画書や説明・同意文書等の書類の確認・検討を行うためのポイントの習得を目的としたケーススタディを実施する。</p> <p>2. ポイント（構成）</p> <p><b>【講義/演習】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) それぞれの規制（法・倫理指針）の対象となる治験や臨床研究について説明する。</li> <li>2) 各々の法・倫理指針の概要、特長、および特に留意すべき点について説明する。</li> <li>3) 通常の保険診療と治験・臨床研究の違い、およびそれぞれと健康保険制度の関わりについて説明する。</li> <li>4) 審査においてしばしば問題となる点や、特に注意を要する点について説明する。</li> </ol> <p><b>【ICT】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ICR 臨床研究入門（ICRweb）  <a href="https://www.icrweb.jp/icr_index.php">https://www.icrweb.jp/icr_index.php</a></li> </ol> <p>講義/演習目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) GCP、臨床研究法、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針等の各種規制の概要が理解できる。</li> </ol>			

- 2) 我が国の保険外併用療養費制度（先進医療、患者申出療養）に関する基本事項が理解できる。

#### 参考文献

- 1) ポケット資料集製作委員会『臨床研究ポケット資料集』 キタ・メディア 2018年
- 2) ポケット資料集製作委員会『GCPポケット資料集』 キタ・メディア 2019年
- 3) ポケット資料集製作委員会『ICHガイドラインポケット資料集』 キタ・メディア 2019年
- 4) 井上悠輔、一家綱邦『医学研究・臨床試験の倫理 わが国の事例に学ぶ』 日本評論社 2018年
- 5) 笹栗俊之、池松秀之『臨床研究のための倫理審査ハンドブック』 丸善 2011年

No. 6	臨床研究計画		
授業科目の目標	研究実施計画書、説明文書・同意書、関連資料のレビューができる		
キーワード・ 方法・時間	研究実施計画書、説明文書、同意書、関連資料の概要のレビュー	講義	1 コマ
		演習	1 コマ
		ICT	0.5 コマ
概要			
<p>1. 授業科目のねらい</p> <p>研究を実施するにあたって、あらかじめ研究実施計画書、説明文書・同意書、その他の関連資料が、科学的観点ならびに倫理的観点から、中立的かつ公正にレビューされていることが求められる。これらの資料をレビューするにあたり、最低限おさえておきたい事項について概説する。演習では、これらのポイントをふまえて、レビューのあり方について実際に経験を通じて理解を深めるため、研究実施計画書や説明文書・同意書等の資料を用いたレビューを実施する。</p> <p>2. ポイント（構成）</p> <p><b>【講義/演習】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研究計画が科学性と倫理性を担保した記載（社会的な価値、科学的妥当性、適正な被験者選択、適切なリスク・ベネフィット評価）がされていることを説明する。</li> <li>2) 研究実施計画書、説明文書・同意書に記載すべき項目のレビューにおける留意事項について説明する。</li> <li>3) 研究計画書、説明文書・同意書以外の関連資料について説明し、レビューにおける留意事項について説明する。</li> </ol> <p><b>【ICT】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ICR 臨床研究入門（ICRweb）：「倫理審査委員向けの倫理研修用動画教材（東京大学作成）」など  <a href="https://www.icrweb.jp/icr_index.php">https://www.icrweb.jp/icr_index.php</a></li> </ol> <p>講義/演習目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研究実施計画書をレビューするにあたって留意すべき事項について理解する。</li> <li>2) 説明文書・同意書をレビューするにあたって留意すべき事項について理解する。</li> </ol>			

3) その他、関連資料について留意すべき事項について理解する。

参考文献

- 1) 笹栗俊之、池松秀之『臨床研究のための倫理審査ハンドブック』 丸善 2011年
- 2) RecNet Fukuoka 「倫理審査の手順」  
([https://www.med.kyushu-u.ac.jp/recnet\\_fukuoka/e-learning/flow.html](https://www.med.kyushu-u.ac.jp/recnet_fukuoka/e-learning/flow.html))

No. 7	研究デザインと統計解析		
授業科目の目標	臨床研究における科学的合理性について生物統計学的視点も考慮し説明できる		
キーワード・ 方法・時間	研究デザイン、統計解析、サンプルサイズ、評価項目（中間解析、独立データモニタリング委員会（効果安全性評価委員会））	講義	0.5 コマ
		演習	0.5 コマ
		ICT	0.5 コマ
概要			
<p>1. 授業科目のねらい</p> <p>臨床研究における科学的合理性については研究の目的が明確であること、目的と評価項目、目的と研究デザインが合致していること、評価項目の定義が明確であること、統計学的考察が記載されていること、目標症例数の設定根拠と解析方法が合致していること、目標症例数の設定根拠、解析対象集団、解析方法が妥当であること、生物・医学統計の専門家が参画していることなどが求められる。これらの概要について説明する。</p> <p>2. ポイント（構成）</p> <p><b>【講義/演習】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 臨床研究の種類や一般的な研究デザインの特徴について解説する。</li> <li>2) 研究計画における、研究目的やリサーチクエスチョン（RQ）に沿った評価項目（アウトカム、エンドポイント）の設定の考え方やその重要性について解説する。</li> <li>3) 臨床研究における一般的な統計解析手法や、統計解析手法に応じて必要なサンプルサイズを設計する必要があることを解説する。</li> <li>4) 研究の妥当性を確保するため、バイアスや交絡を制御することが重要であることを解説する。また、交絡を制御する方法として、ランダム化、層別化、マッチングについて紹介する。</li> <li>5) 臨床研究における中間解析の意義や方法を解説し、独立データモニタリング委員会（効果安全性評価委員会）を設置することの意義やその役割について解説する。（医学・医療専門家の委員向け）</li> </ol> <p><b>【ICT】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ICR 臨床研究入門（ICRweb）  <a href="https://www.icrweb.jp/icr_index.php">https://www.icrweb.jp/icr_index.php</a></li> <li>2) 臨床試験のための e-Training Center（日本医師会 治験促進センター）  <a href="https://etrain.jmacct.med.or.jp/login">https://etrain.jmacct.med.or.jp/login</a></li> </ol>			

- 3) 医系国際誌が規範とする研究の信頼性にかかる倫理教育プログラム  
([https://www.amed.go.jp/page\\_000001\\_00542.html](https://www.amed.go.jp/page_000001_00542.html))

講義/演習目標：

- 1) 主要評価項目・副次評価項目や研究デザインを、研究目的やRQに対して選択することを理解する。
- 2) 統計解析手法やサンプルサイズが適切に選択され、バイアスや交絡因子が適切に制御されることの必要性を理解する。
- 3) 中間解析や効果安全性評価委員会の意義や役割について理解する。(医学・医療の専門家の委員向け)

#### 参考文献

- 1) 大橋靖雄、荒川義弘 『臨床試験の進め方』 南江堂 2006年
- 2) JCOG データセンター、福田治彦 『米国 SWOG に学ぶ がん臨床試験の実践 第2版』 (原書第3版) 医学書院 2013年
- 3) 木原雅子、木原正博 『医学的研究のデザイン 研究の質を高める疫学的アプローチ 第4版』 メディカルサイエンスインターナショナル 2014年
- 4) 井村裕夫、竹内正弘、花岡英紀、藤原康弘、山本晴子 「Part II 生物統計学と疫学」 『NIH 臨床研究の基本と実際 原書3版』 丸善出版 2016年

No. 8	臨床研究の実施体制①		
授業科目の目標	臨床研究の実施体制の概要を理解し、審査対象となる研究における実際のあり方や運用を把握できる		
キーワード・ 方法・時間	モニタリング、監査、安全性情報、有害事象・疾病等報告、実施状況報告、逸脱、不適正・不適合（臨床研究法）事案	講義	0.5 コマ
		演習	0.5 コマ
		ICT	0.5 コマ
概要			
<p>1. 授業科目のねらい</p> <p>モニタリングの手法、監査の手法、安全性情報の取り扱い、実施状況報告、逸脱、不適正事案への対応について、その概要について解説し、審査等のポイントについて解説する。</p> <p>2. ポイント（構成）</p> <p><b>【講義/演習】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) モニタリングと監査の概要、それぞれの意義、実施手順、報告書について説明する。</li> <li>2) 有害事象や疾病など、治験・臨床研究で扱う安全性情報の概要、意義、報告手順、報告書について説明する。</li> <li>3) 法・倫理指針に定められた各種報告の種類、それぞれの概要と意義、報告手順、報告書について説明する。</li> <li>4) モニタリング、監査、安全性情報、各種報告に関する審査において、留意すべき点を説明する。</li> </ol> <p><b>【ICT】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) CROCO（大阪大学医学部附属病院）：「品質管理・品質保証」  <a href="https://bvits.dmi.med.osaka-u.ac.jp/croco">https://bvits.dmi.med.osaka-u.ac.jp/croco</a></li> </ol> <p>講義目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) モニタリングの目的を理解し、モニターの役割と業務、報告書について概要を理解する。</li> <li>2) 監査の目的を理解し、監査担当者の役割と業務、報告書について概要を理解する。</li> <li>3) 重篤な有害事象や疾病等の報告において、対象、報告方法、記載されるべき内容を理解する。</li> </ol>			

- 4) 研究者から提出される各種報告の種類や、それぞれの内容、意義を理解する。
- 5) モニタリング、監査、安全性情報、各種報告について、審査のポイントを理解する。
- 6) 研究計画書からの逸脱や、遵守すべき規制への不適合に関して報告される事案に対して、審査における考え方や、述べるべき意見について理解する。

演習目標：

- 1) 研究と因果関係のある重篤な有害事象（疾病等）が発生した場合に、委員会が述べるべき意見について、理解する。
- 2) 不適正事象が発生し、研究の中止・中断を検討する場合に、委員会が述べるべき事項について、理解する。

#### 参考文献

- 1) 橋渡し研究戦略的推進プログラム 拠点間ネットワーク モニタリングに係る取組「モニタリング ～臨床研究の信頼性確保」  
(<http://www.mextnw.hosp.tohoku.ac.jp/handouts/002/wp/rm>)
- 2) 日本医師会治験促進センター 「治験・臨床研究のモニタリング計画書等に関する成果物」 (<http://www.jmacct.med.or.jp/information/monitoring.html>)
- 3) 日本医師会治験促進センター 「治験・臨床研究のクオリティマネジメントプランの策定に関する成果物」 (<http://www.jmacct.med.or.jp/information/qualitymanagement.html>)
- 4) 厚生労働科学研究費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業『治験活性化に資する GCP の運用等に関する研究』班、大学病院臨床試験アライアンス「臨床試験のモニタリングと監査に関するガイドライン」臨床薬理 46(3)： 133-178 2015 年 ([http://www.jscpt.jp/press/2015/150601press\\_release.html](http://www.jscpt.jp/press/2015/150601press_release.html))
- 5) 日本 QA 研究会「医師主導治験における監査マニュアル」「臨床研究の監査手順書・手順書ガイド」および「臨床研究の監査マニュアル」(Ver.20180313)  
([https://www.jsqa.com/seikabutsu/open/gcp\\_bukai/c-4-b\\_20180323/](https://www.jsqa.com/seikabutsu/open/gcp_bukai/c-4-b_20180323/))
- 6) 日本 QA 研究会「医師主導治験用チェックリストおよび臨床研究用チェックリスト」(Ver.20180322) ([https://www.jsqa.com/seikabutsu/open/gcp\\_bukai/151218-2/](https://www.jsqa.com/seikabutsu/open/gcp_bukai/151218-2/))

No. 9	臨床研究の実施体制②		
授業科目の目標	臨床研究の実施体制についての概要を把握し議論できる		
キーワード・ 方法・時間	研究代表医師・研究責任医師等の役割（臨床研究 法）、補償と賠償、試料情報の保管、データベース 登録、薬剤管理、医療機器管理、被験者募集他	講義	0.5 コマ
		演習	0.5 コマ
		ICT	0.5 コマ
概要			
<p>1. 授業科目のねらい</p> <p>臨床研究における補償と賠償の定義、その違い、保険に加入する場合の保険の種類（補償金・医療費・医療手当）について解説する。また、補償・賠償の事例を紹介する。</p> <p>試料・情報の保管、データベース登録、薬剤管理、医療機器管理、研究対象者の募集の方法等についても解説する。</p> <p>2. ポイント（構成）</p> <p><b>【講義/演習】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 臨床研究における補償と賠償の定義とその違い、保険に加入する場合の保険の種類（補償金・医療費・医療手当）について事例を交えて説明する。</li> <li>2) 研究で発生した各記録や文書、研究で採取した試料の保管方法と適切な管理方法について説明する。</li> <li>3) 臨床研究におけるデータベースの必要性について説明する。</li> <li>4) 試験薬、試験機器の管理と記録の作成について説明する。</li> <li>5) 適切な研究対象者の募集の方法について説明する。</li> </ol> <p><b>【ICT】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ICR 臨床研究入門（ICRweb）：「補償」や「賠償」のキーワード検索で該当する講義（「臨床研究における fairness 《講師：松井健志》」、「臨床研究の補償保険について」および「臨床研究保険の基礎知識と問題点 《講師：中村健一》」）など  <a href="https://www.icrweb.jp/icr_index.php">https://www.icrweb.jp/icr_index.php</a></li> </ol> <p>講義目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 補償と賠償の違いを説明できる。</li> </ol>			

- 2) 健康被害に対する補償措置について議論できる。
- 3) 研究で採取した試料の取扱いや保管、管理体制について、議論できる。
- 4) 研究で発生した各記録や文書の報告、保管、管理体制について議論できる。
- 5) 公開されたデータベースが適切かどうか議論できる。
- 6) 研究計画書に記載されている試験薬・機器の管理の手順や方法が適切かどうか議論できる。
- 7) 研究における研究対象者の募集方法に関して、適切かどうか議論できる。

演習目標：

補償措置が行われるような事例において、委員会の役割について、理解し、実践できる。

#### 参考文献

- 1) 医薬品企業法務研究会「被験者の健康被害補償に関するガイドライン（平成30年版、ver. 3.2）」（[https://www.ihoken.or.jp/pdf/guideline\\_20181225.pdf](https://www.ihoken.or.jp/pdf/guideline_20181225.pdf)）

No. 10	研究審査体制、審査委員会、委員の役割		
授業科目の目標	一般的な研究審査体制を理解し、倫理審査委員会等の体制・役割について説明できる		
キーワード・ 方法・時間	臨床研究法他の関連法規・倫理指針における審査体制、中央倫理審査委員会等の一括審査（審査委受託等）、倫理審査委員会等の要件・役割	講義	0.5 コマ
		演習	0.5 コマ
		ICT	1 コマ
概要			
<p>1. 授業科目のねらい</p> <p>臨床研究においては、各種の法規・指針等にあわせて倫理審査委員会等が設置される。本項では、それらの規制において重要な役割を行う倫理審査委員会等について概説する。また、中央一括審査における審査の手続き、委受託する施設それぞれの役割分担の概要、事務局の対応についても説明する。</p> <p>2. ポイント（構成）</p> <p><b>【講義/演習】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 各種の法規・指針等における倫理審査委員会等を構成する委員の要件について説明する。</li> <li>2) 倫理審査委員会等の役割について説明する。</li> <li>3) 中央一括審査における審査の手続き、委託施設と受託施設（委員会）の役割について説明する。</li> </ol> <p><b>【ICT】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ICR 臨床研究入門（ICRweb）：「倫理審査委員会」  <a href="https://www.icrweb.jp/mod/resource/view.php?id=132">https://www.icrweb.jp/mod/resource/view.php?id=132</a></li> </ol> <p>講義目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 各種の法規・指針等における倫理審査委員会等の要件・役割、中央一括審査に係る基本事項について理解する。</li> </ol> <p>演習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 各種の法規・指針等における審査体制、中央倫理審査委員会等の一括審査の事務局における運用の実際を理解する。</li> </ol>			

#### 参考文献

- 1) ポケット資料集製作委員会『臨床研究ポケット資料集』キタ・メディア 2018年
- 2) ポケット資料集製作委員会『GCPポケット資料集』キタ・メディア 2019年
- 3) ポケット資料集製作委員会『ICHガイドライン』キタ・メディア 2019年
- 4) 井上悠輔、一家綱邦『医学研究・臨床試験の倫理 わが国の事例に学ぶ』日本評論社 2018年
- 5) 笹栗俊之、池松秀之『臨床研究のための倫理審査ハンドブック』丸善出版 2011年
- 6) ロバート J.アムダー、エリザベス・A・バンカード『IRBハンドブックー臨床研究の倫理性確保、被験者保護のために』中山書店 2003年

No. 11	その他の重要事項		
授業科目の目標	その他の重要事項について概要を理解できる		
キーワード・ 方法・時間	審査委員会事務局の役割、研究倫理コンサルテーションの概要、臨床研究実施事務局の役割、研究実施コンサルテーションの概要、支援体制、運用上のノウハウ（審査業務上の好事例、難渋した事例等）の共有	講義	0.5 コマ
		演習	1 コマ
		ICT	0.5 コマ
概要			
<p>1. 授業科目のねらい</p> <p>研究がどのような体制で行われているかについて概説する。また、倫理委員会事務局の役割について概説し、委員会運営等の質の向上、合理化・省力化に役立つ運用上のノウハウについて、各施設における事例（審査業務上の好事例、難渋した事例等）の紹介・ディスカッションを実施する。</p> <p>2. ポイント（構成）</p> <p><b>【講義】</b></p> <p>1) 研究毎の研究実施体制（研究事務局、モニタリング・監査体制、効果安全性評価委員会）や各機関における研究体制（研究支援部門、研究機関の事務局）との関わりについて説明する。</p> <p>2) 倫理委員会における事務局の業務・役割等について説明する。</p> <p><b>【演習】</b></p> <p>1) 参加者から課題や質問を事前に集め、それに関連する事例の紹介、対応策の検討を行う。</p> <p>2) 対象を委員一般の者)、委員(法律・倫理の専門家)、委員(医学・医療の専門家)、その他に区分し、ラウンドテーブル形式でディスカッションする。</p> <p><b>【ICT】</b></p> <p>1) ICR 臨床研究入門 (ICRweb) : 「臨床研究機関の体制整備講座」 (<a href="https://www.icrweb.jp/course/list.php#a35">https://www.icrweb.jp/course/list.php#a35</a>)</p> <p>2) 日本医療研究開発機構「もっと知りたい医療研究における研究倫理（倫理審査委員会：教育研修教材）」 (<a href="https://www.researchethics.amed.go.jp/kenkyu/kyozai.html">https://www.researchethics.amed.go.jp/kenkyu/kyozai.html</a>)</p>			

講義目標：

- 1) 研究実施体制と倫理委員会事務局の役割について理解する。

演習目標：

- 1) 汎用性が高いと思われるノウハウ（審査業務上の好事例、難渋した事例等）を共有し、自施設にフィードバックすることにより、委員会運営等の質の向上、合理化・省力化に役立てる。
- 2) 審査委員会事務局がどのような役割を担っているかを把握する。審査委員の立場から、どのようなプロセスを経て、審査委員会に申請されてくるのか、研究実施事務局の役割を理解する。

#### 参考文献

- 1) 大橋靖雄、荒川義弘 『臨床試験の進め方』 南江堂 2006 年
- 2) 笹栗俊之、池松秀之 『臨床研究のための倫理審査ハンドブック』 丸善出版 2011 年
- 3) 飯島久志、氏原淳、内田直樹、佐藤愛美、上里彩子 『超簡単!!研究倫理審査と申請 ~ 適正な臨床・疫学研究推進に向けて ~』 薬事日報社 2018 年

No. 12	模擬審査委員会		
授業科目の目標	審査に必要な知識を修得した上で、審査委員として模擬審査委員会の審査に参加し、自施設の運用に応用できる		
キーワード・方法・時間	審査に必要な知識を実際の審査業務に応用する（新規案件・変更審査・SAE報告・実施状況報告・モニタリング計画書などに対する対応事例検討）、委員会の円滑な運営、質の向上、ファシリテーション	演習	2コマ
		ICT	2コマ
概要			
<p>1. 授業科目のねらい</p> <p>模擬審査向けに用意した審査案件を題材に、模擬審査を実施する。</p> <p>審査に必要な知識を修得した審査委員として審査を行う模擬審査委員会を実施し、自施設での運用に応用可能なノウハウを培う。また、モニタリングの手法、監査の手法、安全性情報の取り扱い、実施状況報告、逸脱、不適正事案への対応について、実際の審査の場でシミュレーションを行う。さらに、可能な範囲で、委員長、副委員長等が委員会の円滑な運営に必要とされるファシリテーションスキルを培う。</p> <p>2. ポイント（構成）</p> <p><b>【演習】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 事前に、参加者の背景、職種、経験等をもとにグループ分けを行う。また、必要に応じて、委員長役を指名する。</li> <li>2) 委員会における委員の専門性、多様性について解説する。</li> <li>3) 模擬審査委員会の進め方、審査判定の方法等について解説する。</li> <li>4) 模擬審査資料を使ってグループごとに審議をさせる。主催者は、参加者への助言等（委員長役への進行のアドバイスを含む）を行い、審議の円滑な進行を補佐する。</li> <li>5) 審議中は参加者全員に発言を促し、規定時間内に合意形成型意思決定を前提とした審査判定を行う。</li> </ol> <p><b>【ICT】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 東京医科歯科大学生命倫理研究センター 独学教材  <a href="http://www.tmd.ac.jp/med/bec/ResearchIntegrity/index">http://www.tmd.ac.jp/med/bec/ResearchIntegrity/index</a></li> </ol>			

演習目標：

- 1) 演習を通して委員会開催当日の各担当者の役割を理解する。
- 2) 演習の学びを自施設において審査意見業務および事務局業務に活かすことができる。
- 3) 可能な範囲でファシリテーションとは何か理解する。
- 4) 様々な意見を引き出し、整理して、合意形成するためのファシリテーションスキルを習得する。(委員長、副委員長向け)

#### 参考文献

- 1) 笹栗俊之、池松秀之『臨床研究のための倫理審査ハンドブック』丸善出版 2011年
- 2) ロバート J.アムダー、エリザベス・A・バンカード『IRBハンドブックー臨床研究の倫理性確保、被験者保護のために』中山書店 2003年
- 3) 加藤雄士「コーチングとファシリテーションの活用に関する一考察ー組織開発、学習する組織などへの展開ー」産研論集(関西学院大学)、41: 59-73 2014年  
(<https://www.kwansei.ac.jp/cms/kwansei/pdf/educational/industry/0000053426.pdf>)

「委員会委員養成シラバス 第1版」は、2018年度「日本医療研究開発機構 革新的医療技術創出拠点プロジェクト、医療技術実用化総合促進事業、倫理審査委員会・治験審査委員会委員養成研修」および、2019年度「厚生労働省 臨床研究総合促進事業 倫理審査委員会・治験審査委員会委員養成研修」の中で作成された。

以下に関係者を記す。

2018年度 第1版（案）作成：大阪大学（山本洋一、浅野健人）、国立がん研究センター（一家綱邦、大藤弥生）、九州大学（河原直人、笹原正人）、京都大学（南 学、竹之内沙弥香）、慶應義塾大学（神山圭介、中川敦夫）、東京大学（上竹勇三郎）：とりまとめ拠点

2019年度 第1版（確定版）作成：大阪大学（山本洋一、浅野健人）、国立がん研究センター（一家綱邦、斎藤洋子）、九州大学（河原直人、笹原正人）、慶應義塾大学（神山圭介、中川敦夫）、東京大学（上竹勇三郎）、北海道大学（七戸秀夫）、東北大学（高野忠夫、横田崇）：とりまとめ拠点